



寄稿



親愛なる CAPNA の皆様へ

内閣官房子ども家庭庁設置法案等準備室
内閣審議官

長 田 浩 志

私と CAPNA の皆さんとの出会いは、今からさかのぼること 20 年以上前の 2001 年 7 月に始まります。当時、滋賀県に出向し、県の児童家庭課長として児童虐待防止対策や社会的養護の問題に取り組んでいた私は、公職とともに、CAPNA をお手本に、滋賀の仲間たちと子どもの虐待防止ネットワークの立ち上げを目指した活動をしており、CAPNA 初代理事長の祖父江文宏さんに会いに暁学園を訪問させていただきました。すでに闘病中であった祖父江さんとは最初で最後の出会いでしたが、以来、祖父江さんを引き継がれた 2 代目理事長の岩城正光さん、矢満田篤二さん、兼田智彦さんら、CAPNA のみなさんとは親しく交流させていただいています。

滋賀で取り組んでいたネットワークづくりは、2002 年 5 月 19 日に CAPN e S (子どもの虐待防止ネットワーク・しが) として設立にこぎつきました。設立総会では、お亡くなりになる直前の祖父江さんがメッセージを寄せてくださり、矢満田さんが滋賀までお越しになり、代読して下さいました。

「私の人生に残されたカードは、もうありません。しかし、夢をつないでくださる皆様に出会いました。また、ひとつ安心を戴きました。ありがとうございます。子どもの虐待防止ネットワーク・しがの皆様へ 敬愛をこめて」

滋賀県での 3 年間の出向生活の後、2003 年に厚生労働省に復帰した私は、要保護児童対策地域協議会の法定化などを行った 2004 年児童福祉法改正などに関わらせていただき、2012 年からは、内閣府において、子ども・子育て支援新制度の施行準備を担当し、消費税財源を活用した子育て支援の充実を図りました。さらに、2017 年からの 2 年間は、厚生労働省子ども家庭局総務課長として、児童虐待防止緊急総合対策の策定や、体罰禁止を盛り込んだ児童福祉法・児童虐待防止法改正などに関わらせていただくなど、私にとって「こども政策」はライフワークとなっています。

この間、自分なりに CAPNA のみなさんから学ばせていただいたことのいくばくかは、政策に落とし込むこともできたのではないかと考えています。

しかるに、こどもを取り巻く状況は深刻さを増している、故・祖父江さんに「安心」していただける状況とは程遠い現実です。政府においては、今この時が「一人ひとりのこどもの Well-being を高め、社会の持続的発展を確保できるかの分岐点にある」との認識にたつて、こども政策を強力に進めるべく、常にこどもの視点に立ち、こどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据える「こどもまんなか社会」の実現に向けた取組の新たな司令塔として、「こども家庭庁」を創設する基本方針を昨年末に決定し、本年 2 月下

旬に「こども家庭庁設置法案」を国会に提出しました。

今、私はこども家庭庁づくりを担当させていただいています。法案の概要や今後のこども政策の基本理念などについて、少し紹介します。

まず、昨年末に閣議決定した基本方針においては、今後のこども政策の基本理念として、以下を掲げました。

- ① こどもの視点、子育て当事者の視点に立った政策立案
- ② 全てのこどもの健やかな成長、Well-beingの向上
- ③ 誰一人取り残さず、抜け落ちることのない支援
- ④ こどもや家庭が抱える様々な複合する課題に対し、制度や組織による縦割りの壁、年度の壁、年齢の壁を克服した切れ目ない包括的な支援
- ⑤ 待ちの支援から、予防的な関わりを強化するとともに、必要なこども・家庭に支援が確実に届くようプッシュ型支援、アウトリーチ型支援に転換
- ⑥ データ・統計を活用したエビデンスに基づく政策立案、PDCAサイクル（評価・改善）

こども家庭庁設置法案においては、その任務を「こどもが自立した個人としてひとしく健やかに成長することのできる社会の実現に向け、子育てにおける家庭の役割の重要性を踏まえつつ、こどもの年齢及び発達程度に応じ、その意見を尊重し、その最善の利益を優先して考慮することを基本とし、こども及びこどものある家庭の福祉の増進及び保健の向上その他のこどもの健やかな成長及びこどものある家

庭における子育てに対する支援並びにこどもの権利利益の擁護に関する事務を行うこと」と規定し、「こどもまんなか」のポリシーを明記しています。

また、特定の年齢で支援が途切れることのないようにしていくという考えから、「こども」を「心身の発達の過程にある者」と定義しています。

こども家庭庁は、令和5年4月1日の発足を目指していますが、基本方針においては、こども家庭庁の基本姿勢として、①こどもの視点、子育て当事者の視点②地方自治体との連携強化③NPOをはじめとする市民社会との積極的な対話・連携・協働を掲げています。

こども家庭庁が発足した暁には、これまでややもすると、大人の視点、制度や事業を運営する者の視点中心に行われてきた「こども政策」を、こどもの視点、子育て当事者の視点に立って、企画立案、実施していくという質的な転換を図っていくとともに、こども政策の具体的な実施を担う基礎自治体、現場第一線でこどもや家庭を支える活動を行っておられるCAPNAのような民間団体のみなさんとの連携をより一層図ることで、真に必要な支援が届けられるようにしていくことが極めて重要だと考えています。

これまで、こどもの虐待防止、虐待してしまう親の支援などに先駆的に取り組んでこられたCAPNAのみなさんには、引き続き、全国の市民活動をリードしていただきたいと思っておりますし、行政に対しても必要な施策提言をしていただくなど、その活動に大いに期待しています。

滋賀と愛知の協働 日本子どもの虐待防止民間ネットワークの設立

2004年4月29日、愛知と滋賀の全国の虐待防止民間団体に対する呼びかけで、滋賀県草津市に全国から16都府県の23団体が集まりました。会議では、大阪府岸和田市で起きたショッキングな虐待事件が話題となりました。行政や専門機関だけでは虐待への対応は不十分であり、民間団体は「専門性」とともに「普通の人」の立場で当事者に寄り添うことができ、その利点を生かす必要が強調されたのでした。

同日、「日本子どもの虐待防止民間ネットワーク」を設立し、今後の活動についても話し合われました。毎年1回全国大会を開いてお互いの実践について交流することや、メーリングリスト・ホームページなどを使い情報を共有することなどを決めました。

『コロナ禍における子どもの「緊急事態」』

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 准教授 内田 良

■コロナ禍で家に一人ぼっち

新型コロナウイルス感染症は、私たちの仕事と生活を一変させました。大人／子どもを問わず、また家庭の内と外を問わず、あらゆる領域に、ウイルスは侵入しました。

2020年2月27日の安倍晋三首相（当時）による突然の全国一斉休業の要請に、学校は大混乱に陥りました。それは家庭も同じです。とりわけ、保護者が一人の家庭あるいは非正規雇用の家庭にとっては、全国一斉休校の影響は甚大です。子どもの面影をみるために連日仕事を休むこと自体が難しかったり、また休んだところでそれによって大きな不利益を受けたりすることが危惧されました。

動画メディア「mama + (ママタス)」が、子どもをもつ女性を対象に3月1日と2日に実施したアンケート調査（有効回答数は1388人）によると、子どもが臨時休校となった有職の母親の43.8%が、休校中は「子どもだけで留守番」と回答しました。小学校低学年（1～3年）の場合でも、34.9%が「子どもだけで留守番」という結果でした。同様に、認定NPO法人フローレンスが3月6日～9日に、休校になった全国の保護者を対象に実施したインターネット調査「一斉休校に関する緊急全国アンケート」（有効回答数は8339名）によると、小学校1～3年生の25.1%、小学校4～6年生46.6%が、「子どもだけで長時間留守番させている」と回答しました。

日本小児科学会の対応は、とても早かったです。3月13日に同学会の「こどもの生活環境改善委員会」が「留守番をする子どもの安全をまもるためにできること」を発表しました。全国的な学校の一斉休業について「今回の措置により、子どもだけで留守番させなければならないご家庭も少なくないと思

われます。保護者が不在の中、子どもだけで留守番をしなければならないという状況には、危険が多く潜んでいます。子どもだけで留守番をさせる際の安全対策をまとめました」として、キッチン、浴室・洗面所、リビング・子ども部屋、ベランダ、玄関などの場所別に、注意点が列挙されました。たとえば、キッチンについては、子どもが火を使わなくて済むように食事（お弁当）を用意しておくこと、玄関については、留守番中には来客があっても応じないようにルールを決めて練習しておくことなど、具体的な提案が並んでいました。医療（小児科）の専門性を超えていることが多く含まれていますが、いずれも重要な事項です。それほどまでに子どもの生活が緊急事態に置かれていたということでしょう。

■ Stay Home のリスク

2020年4月15日に国連が発表した報告書「新型コロナウイルス感染症が子どもに与える影響」は、「多くの子どもにとって家庭（home）とは安全と安心の源を象徴するものである。だが悲劇的なことに、一部の子どもにとっては正反対というのが事実」であり、「一家が自宅に閉じ込められ、激しいストレスと不安を経験しているときに、暴力行為が起こりやすくなる」と、家庭にとどまることがもつリスクについて、警鐘を鳴らしています。

また、2020年4月7日には、日本子ども虐待医学会・日本子ども虐待防止学会・日本小児医学会が共同で厚生労働大臣に対して「新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に増大する子どもへの虐待リスクなどへの対応に関する要望書」を、2020年5月1日には、日本子ども虐待防止学会が厚生労働大臣に対して「緊急要望書」を提出し、Stay Home のリスクを訴えました。

単純に考えても、子どもが家庭ですっと時間を過



ごすということは、それだけ子どもの日常における家庭の影響の比重が増すということです。プラスの影響だけが増すのであればそれでよいのですが、マイナスの影響すなわち虐待などの家庭問題の深刻化が懸念されました。

統計数理研究所「日本人の国民性調査」によれば、多くの人びとにとって家族というのは、「もっとも大切なもの」であり、その傾向は長期的に高まる傾向にあります。しかしながら一部とはいえ、家庭という場が、安心できるどころか、不安になったり恐怖を感じたりする場となっていることもあります。2019年5月上旬にNHKは全国の中学生を対象に、いじめと不登校に関する調査をLINEリサーチにより実施しました。私自身も当初から共同研究として調査の設計から実施・分析に関わってきたことから、その個票データをもとに独自に分析したところ、「家の中に居場所がないと感じるときがありましたか?」という質問への回答では、「とてもよく感じていた」が5.1%、「よく感じていた」が5.8%でした。約1割の中学生は、家が居場所となっていないのです。

■子どもの自殺件数が過去最多

警察庁「令和2年中における自殺の状況」によると、2020年中に小中高生の自殺は499件（小学生14件、中学生146件、高校生339件）発生しました。2019年の合計399件（小学生8件、中学生112件、高校生279件）から100件もの増加であり、それまで過去最多であった1979年の452件をも上回ってしまいました。コロナ禍は子ども受難の年月であり、その意味での「緊急事態」は、

いまもつづいていると危惧されます。

ところで、「子どもの自殺」というフレーズを耳にすると、私たちは学校の「いじめ」を連想しがちです。すなわち、学校でいじめがあって、その被害に耐えきれずについに命を絶ってしまうようなケースです。しかもSOSを発信していたにもかかわらず、学校が十分な対応をとらなかった。それどころか外部に対して、学校はいじめがあったことを隠蔽し、さらには教育委員会も共謀してそれに加担するのだ、と。

子どもの自殺をめぐるのは、一言で表現すれば「学校が悪い」という解釈が流通しています。そうした事案が数多く発生してきたことはまちがいありません。でも、だからと言って「学校が悪い」を自明視してはなりません。事例を検証する前から「学校が悪い」の枠組みに入れてしまうと、子ども自身がどのようにして苦悩を深めていったのか、子ども目線でそのプロセスを追っていく作業を放棄することになります。先の「令和2年中における自殺の状況」には、「自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている」ことが図解で示されています。学校バッシングという既存の枠組みのなかに自殺を押し込めて理解しようとする、広い視野から見えてくるはずの複合的な要因が捨象されてしまいます。

これまで子どもに関わる課題群というのは、「学校の課題」と「家庭の課題」に分断されてきました。教育（学）／社会福祉（学）、文部科学省／厚生労働省、いじめ・不登校・体罰／虐待といったように、縦割りで議論されて対策が講じられてきました。でも、子どもは学校と家庭の間を行き来します。家庭で親からしごかれ、学校で友人にいじめられて、行き場を失うこともあります。子どもの目線から見たときに、学校と家庭はどう見えるのか。縦割りの議論に横串をとおすことが必要です。

コロナ禍は、学校／家庭を問わず、あらゆる領域における子どもの安全・安心を考えるきっかけをつくりだしました。この大災害から私たちが学ぶべきことは、たくさんあるように思います。

キャプナ出版 在庫一掃セール

キャプナ出版はNPO法人CAPNAができる前、現在の事務局マンションを購入するときに設立した有限会社です。これまで、CAPNAの活動を書籍として出版したり、メンバーの著書を販売しています。

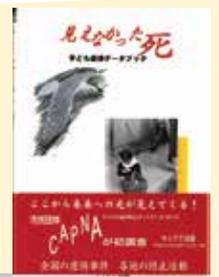
今回はこれまでの在庫を皆様にお手ごろな価格で販売いたします。

●●主な書籍紹介●●

○見えなかった死 子どもの虐待データブック

日本で初めて虐待と無理心中で亡くなった子供たちの実態を新聞記事の検索から明らかにしたデータブック

1998年出版 185ページ 特価 500円



○101人の少年たち

○101人の少年たち ～性的虐待の研究から ポリエ・スヴェソン著

セーブ・ザ・チルドレン・スウェーデンの活動記録 スウェーデンで性的虐待の被害にあった101人の少年への調査

2001年出版 37ページ 特価 200円



○あなたにとどけ CAPNA ホットラインレポート

CAPNA ホットラインへかけてきた電話相談の実態報告

2002年出版 60ページ 特価 200円



○責任と癒し

○責任と癒し 修復的正義の実践ガイド パワード・ゼア著 森田ゆり訳

犯罪が起こったとき、被害者と加害者、地域社会はどのように対応すべきなのだろうか？ 犯罪の復讐＝応報の原理をもとにして裁く従来の司法に対し、犯罪によって損なわれた関係性の修復を目指す「修復的正義」の原則と実践を、事例とともに簡潔に解説 築地書館 特価 800円



悲しみに身を添わせて 祖父江文宏著 同朋選書

あなたが あなたを大切にし あなたを誇りとし あなたを信頼し

あなたを愛すように ひたすら願い あなたは逝く

あなたを愛しつつける 詩集「残された時間」より 221ページ 500円



■お申し込みは■

CAPNA 事務局まで E-mail: approach@capna.jp 電話: 052-232-2880 FAX: 052-232-2882
別途送料がかかります。

認定NPO法人CAPNA 記念イベント

私たちCAPNAは1995年から「小さい人の笑顔のために」の理念のもと、子どもに関わる各分野専門家と多くの市民ボランティアが集まり設立された市民団体です。

電話相談・危機介入・自助グループから始まり、メール相談、シェルター運営・研修・広報など、これまで様々な取り組みを行ってきました。

数多くの市民の方々の賛同と支援により私たちCAPNAの活動を続けることができたことに心より感謝いたします。この度新型コロナウイルス感染予防のために延期となっておりましたイベントを行える目途が立ちましたので是非足を運んでいただけますと幸いです。

朗読劇「おじんの童話と瑞希の唄」はおじんこと鬼頭隆さんによる迫力ある朗読とおじんの娘さんである瑞希さんの奏でるピアノ演奏のコラボレーション朗読劇です。

朗読：童話「もずの心」
作：鬼頭 隆
即興演奏：鬼頭瑞希

朗読劇 おじんの童話と瑞希の唄

2022.5.28 土

14:30~16:30 (14:00 開場)

西文化小劇場ホール (定員 350名)

瑞希ピアノ弾き語り
「私のあの子」「破れた傘」など
詩曲歌：瑞希



- ・地下鉄鶴舞線「浄心」④番出口 南へ徒歩 3分
- ・市バス「西区役所」下車すぐ
- ・市バス「浄心町」下車 南へ徒歩 4分

入場無料 参加申し込みは不要です。
どうぞ足を運んでください。

主催 お問い合わせ

認定 NPO法人 **CAPNA**

Tel: 052-232-2880

E-mail: info@capna.jp

H.P: <https://capna.jp>



共催 自由空間八田

1. 2021年度電話相談：子どもの虐待防止ホットライン

2021年4月1日～2022年3月31日



①受信件数 527件

1) 相談者性別・年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明	合計
男	2	4	22	206	17	37	10	298
女	0	42	32	57	38	23	32	224
不明	0	0	0	0	0	0	5	5
合計	2	46	54	263	55	60	47	527

2) 利用回数

初回	継続	不明
146	354	27

3) 相談時間

～9	～19	～29	～39
39	100	192	74
～49	～59	60分以上	
52	35	35	

4) 被虐待経験の有無

あり	なし	不明
396	17	114

②内容別件数

虐待（含む危惧）	40
18歳以上の虐待	310
育児不安	45
マスコミ・問合せ	78
その他相談	42
無言・ノイズ	1
妊娠・出産	11

虐待の型

身体的	55
心理的	270
ネグレクト	9
性的	13
不明	3

2. 2021 メール相談

2021年4月1日～2022年3月31日

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
128	117	155	131	121	120	113	85	79	59	78	83	1,269

3. シェルター事業

2021年度 利用数 7件（大人3名、子ども3名）

利用日数 延べ73日間

2021年4月1日～2022年3月31日

	受付先	経路	利用者	内容	判断	支援	支援結果
4月	事務局	機関	母44歳、14歳女	DV・性虐待ケース	該当	利用	33日間
5月	事務局	機関	21歳女	性虐待ケース	該当	利用	15日間
5月	事務局	機関	19歳女	虐待ケース	該当	利用せず	
9月	事務局	警察	35歳女（夫婦共働）	DVケース	該当	利用せず	
10月	事務局	機関	18歳女（高校生）	虐待ケース	該当	利用せず	
11月	事務局	機関	32歳女・2歳児	虐待ケース	該当	利用せず	
1月	事務局	機関	母（外国人）、子（神奈川県）	DVケース	該当	利用せず	
1月	事務局	機関	母、5歳女、3歳男	DVケース	該当	利用	25日間
3月	事務局	機関	母（外国人）、子	DVケース	該当	利用せず	
3月	事務局	機関	母、祖母、子2名	DVケース	該当	利用せず	

★書籍紹介



「月の光の届く距離」

光文社 宇佐美まこと著

女子高生の予期せぬ妊娠と新生児養子縁組を題材とした物語です。

読み終えたときに「月の光の届く距離」というタイトルの意味がじわ〜っと心にしみました。

ぜひ一読を！

理事：小出砂恵子



ご寄付ありがとうございます

皆様の多大な寄付に感謝を申し上げます

2021年12月1日～2021年2月28日
敬称略・順は日付順になってます

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 石田 金司 | 萬屋 育子 | 谷田 悟 |
| 矢野沙也香 | 平井 誠敏 | 林 恵美子 |
| 曾根富美子 | 明田 篤 | 上野 浩孝 |
| 兼田 知英 | 河合 達明 | 河原 千洋 |
| 下野 浩規 | 下和田静香 | 園部 純子 |
| 藤田 真理 | 本多 光将 | 松丸 史郎 |
| 渡辺 美紅 | 和田 淑子 | 岩井 洋司 |
| 中川 誠 | 長谷川和夫 | 小久保裕美 |
| 加勢 恵子 | 榊原 明美 | 鈴木 昌道 |
| 松山 直広 | 村上 正人 | 佐藤 統太 |
| 上竹 秀樹 | 河崎 結香 | |

- パブリックリソース
サンタラン名古屋
株式会社 ROBOT PAYMENT
株式会社 トリニティー

前号にて誤記がありました。お詫びして訂正します。

正：一般社団法人 EONagoya 様

子育てエピソード募集

CAPNA ニュースレターでは子育てエピソードを募集します。応募いただいたエピソードから毎月1点を選び、4コマ漫画にしてホームページで紹介いたします。ふるってご応募ください。もちろん、直接4コマ漫画を応募いただいても構いません。応募先：NPO法人CAPNA事務局（下記まで）



編集後記

2022年度が始まりましたが、内憂外患で内はコロナ感染症、外はロシアのウクライナ侵略から目が離せず、子どもたちの犠牲を考えると心が痛みすっきりした気分にはなれそうにもありません。

CAPNAの活動はオンライン上での研修や電話相談・メール相談や委託事業は継続して行っていますが、皆さんが集まるイベントなどはなかなか実施できておりません。

2022年度の総会は2年ぶりに西文化小劇場をお借りして総会と公演を行う予定です。皆様のご来場をお待ちしております。

